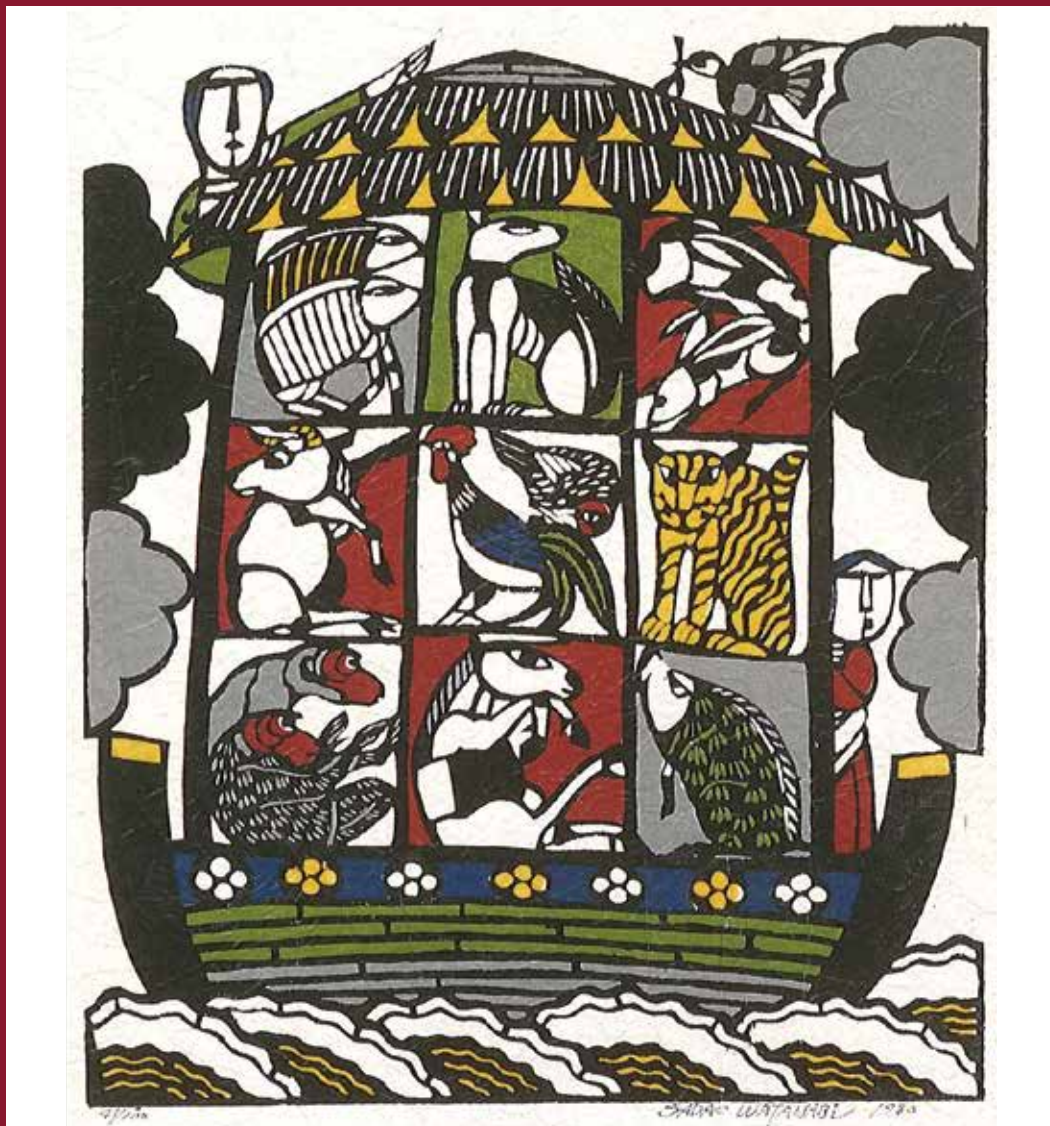




# 旧約聖書の物語解釈

―物語として読む旧約聖書―

【共催】カトリック東京大司教区・上智大学キリスト教文化研究所



## 11月16日(土)

10:25  
～10:30

### 挨拶

上智大学教授  
川中 仁

10:30  
～12:00

### アブラハム物語を読む

関西学院大学教授  
水野 隆一

13:30  
～15:00

### 「ダビデ王位継承物語」の深層 ―女性たちの悲劇と知恵をめぐって―

同志社女子大学教授  
中村 信博

15:15  
～16:45

### 物語文学の構造と主題

上智大学教授  
月本 昭男

場 所：上智大学 中央図書館 9階 921 会議室

聴講券：一般：1,000円 学生：800円

発売日：10月25日(金)～(当日券あり)

発売所：聖イグナチオ教会案内所(月曜休み)

Tel.03-3230-3509

上智大学キリスト教文化研究所(土日祝休み)

(JR中央・総武線、地下鉄丸の内線、南北線 四ツ谷駅下車)

# 2019年度 聖書講座

〈共催〉カトリック東京大司教区  
上智大学キリスト教文化研究所

## 旧約聖書の物語解釈 —物語として読む旧約聖書—

	日 時	テーマ	講 師	内 容
1	11月16日(土) 10:30~12:00	アブラハム物語を読む	関西学院大学教授 水野 隆一	創世記12~25章に記されているアブラハム物語は、資料批判や伝承批判によって、「逸話群」であると見なされるようになりました。確かに、この見解に基づけば、物語にある矛盾や齟齬を考慮しなくてもよくなります。一方、矛盾や齟齬を含んだまま現在の物語を読むと、かえって、物語に「彩」や、より奥行きのある登場人物の性格などを読みとることができます。 聖書の物語解釈にもさまざまな方法が存在します。従って、それぞれの解釈は、正しい読み方を主張するよりは、自覚的な方法に基づいて、多様な読み方の可能性を提示するものであると言えるでしょう。 今回は、アブラハム物語からイシュマエルとイサクの誕生をめぐる部分を取り上げ、物語として読む際の1つの解釈を示したいと思います。ヘブライ語聖書の他の箇所との読み合わせもしながら、アブラハムとイサクへの「祝福」を読者に印象付けようとする、物語の「戦略」を明らかにしたいと思います。
2	11月16日(土) 13:30~15:00	「ダビデ王位継承物語」の深層 —女性たちの悲劇と知恵をめぐって—	同志社女子大学教授 中村 信博	サムエル記下9~20章、列王記上1~2章はダビデの王位継承を主題とした歴史物語です。これまで、背景の歴史性、最初の世襲王朝となったソロモンの政治的、神学的正統性などをめぐって議論されてきました。しかし、一連の物語群の主題は必ずしも一貫していません。ダビデとバト・シェバとの結婚は略奪婚であり、娘タマルは王位継承候補の一人であった異母兄アムノンによって凌辱されてしまいます。混乱する事態に解釈の可能性を示したのは、名もないひとりの女性によって王ダビデに陳述された虚構の物語でした。虚構物語によって事態の深層が暗示され、王ダビデはそれを読み解くことでこの歴史物語は後半の大団円へと向かいます。結果、王位を継承したのはバト・シェバの第2子ソロモンでした。物語は宮廷の暗部をなぜ暴いたのでしょうか。物語からの問いかけを通して、歴史の中に隠された神の働きがどのように理解されてきたのかを考えてみたいと思います。
3	11月16日(土) 15:15~16:45	物語文学の構造と主題	上智大学教授 月本 昭男	民間の口承文学と異なり、一定の神学的意図に基づく聖書の物語は構造分析には向かない、と述べたのは、神話や物語の共時的構造分析に取り組んだフランスの人類学者レヴィ・ストロースでした。その一方で、読み手や聞き手に何らかの意味ある使信を伝えようとする物語には必然的に一定の枠組みや構造が伴う、という指摘もありえます。本発題では、グレマスの物語行為体論を参照しつつ、ルツ記、エステル記、ヨナ書といった旧約聖書に伝えられる「物語文学」に共通する物語の構造を考え、その主題を論じてみたいと思います。

場 所 上智大学 中央図書館9階 921会議室

聴講券 一般 1,000円 / 学生 800円

発売日 10月25日(金) ~ (当日券あり)

発売所 聖イグナチオ教会案内所(月曜休み) Tel.03-3230-3509  
または上智大学キリスト教文化研究所(土日祝休み)  
(JR中央・総武線、地下鉄丸の内線、南北線 四ツ谷駅下車)

問合せ先 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1  
上智大学キリスト教文化研究所  
Tel.03-3238-3540 HP. <http://dept.sophia.ac.jp/is/icc/>